

すべての勤労者のために、力強く邁進を！

～2015トータルライフアップ全県集会開催～



1月17日、前橋市総合福祉会館多目的ホールにおいて、2015トータルライフアップ全県集会を、産別・地協・議員懇など340名が参加し開催しました。



冒頭、北川会長から、「今集会は春季生活改善闘争に臨む決意と統一地方選挙での連合推薦予定候補者の全員の当選に向けた意思合わせの場としたい。また春季生活改善闘争の方針論議をすすめるうえでは、組合員としっかり議論し魂を込めた方針を策定し、力強く邁進しよう」と挨拶

がありました。

その後、連合本部の曾原労働条件・中小労働対策局長より2015春季生活闘争方針について、今、春季生活改善闘争の特徴は、賃上げだけに留まらず、生活全体を向上させていくものであること、また重要なポイントとして、『すべての組合がそれぞれの考え方をもちつつも、要求を掲げなければ世の中の賃金上昇、生活向上につながらない』との説明がありました。



春闘方針では、「賃上げ」「時短」「政策・制度実現」の3本柱に、賃上げでは、すべての組合が月例賃金の引き上げにこだわり、波及力を発揮し、社会全体の「底上げ・底支え」や「賃金格差の是正」を実現し、デフレからの脱却と経済の好循環をめざす。

具体的には、2%以上の引き上げを求め、定昇・賃金カーブ維持相当分を含め、4%以上の引き上げを勝ち取る。

時短では、長時間労働の撲滅をめざし、労働安全衛

生や健康確保の観点のもとより、ワークライフバランス社会の実現をめざす。

また、政策・制度の実現を通じ、実質生活の改善につながる問題の解決をはかることとしています。

政策・制度の実現につなげるため、本集会では、政治アナリストの伊藤 惇夫氏を講師に迎え「今年の政治動向・安倍政権に立ちかかる壁は」をテーマにした講演を行いました。

講師からは、現「安倍政権」の抱える課題や国政選挙と統一地方選挙の違い、また野党のあり方についてなど裏話も交えながらお話頂き参加者は熱心に聞き入っていました。

集会の最後では、今年の統一地方選候補予定者の決意表明とトータルライフアップの活動を力強く前進させるため、参加者全員でガンバロー三唱を行いました。



経営者協会へ要請行動を行う

2015春季生活闘争スタートにあたり、2月10日、県内で働く仲間の賃金、労働条件の底上げ・底支えを実現するため、群馬県経営者協会に対し、①月例賃金引き上げへの積極的な取り組み、②地域ミニマム運動（年齢別最低賃金水準設定値）の周知、③非正規労働者の処遇改善の3点について要請行動を行いました。



「今年のテーマは多様化！」 2015新春・労使共同セミナー ジャーナリスト 内田裕子が語る

今年で13回目となる新春労使共同セミナーは労働組合・経営者など全体で410名の参加がありました。

セミナーは労使が共に認識し合い、考えることを目的としており、今回は、ジャーナリストの内田裕子さんを講師に「取材現場から見える日本経済」と題して講演をいただきました。

講演ポイントをまとめてみました。

現場は多種多様！

ジャーナリストは現場主義と言われる。事前資料を揃えて準備万端で出かけても資料は一切役に立たない。現場に行けば何でも分かると言われるけど、現場は多種多様であり真実の一つではない。

特に、新聞・テレビなどのマスコミは偏っている。分かりやすいところだけ伝えて、それを鵜呑みにすることだけはしない方がいい。

例えば、幼児虐待のニュースは「かわいそう」で終わり、改善策がない。これでは一向に幼児虐待は減少しない。テレビは本質にたどり着くには限界があります。

我々、日本人にとって一番難しいテーマであるのが多様性です。新聞は何を伝えたいか、その傾向を掴むのが大切です。また、日本だけではなく、外国は全く違うことを伝えている。ネットでは海外のニュースが日本語で見られます。世界の論点や流れを見ることが重要なのです。

どんな場面でも現状認識が大切であって、いま何が起きているかを把握する。土台が間違っていると、中長期計画は立てられない。いま何が起きているか、自分でカスタマイズしていくしかない。

世の中の流れを見つつ、自分が信頼するオピニオンを見つけ、その人がどのような発言をするか、どのように変化するのかを注視し、また偏ってしまう可能性もあるので反対意見だけど、世の中に影響力がある人の意見も聞く。

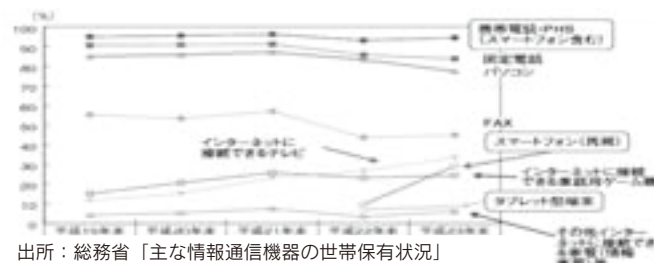
女性活用・労働力不足が課題ですが、アメリカが金融緩和して5年で出口が見えた。日本は3年目、いまが正念場なのです。アメリカは人口が増えているが、日本は人口減少に歯止めがかからない。だれも危機を感じていない、昨年発表された「消滅自治体」は消滅の可能性がある自治体がランキングされている。首長や職員には危機感が生まれ、少子化対策の必要性が再認識された。中でも石川県川北町や長野県下條町の施策が素晴らしい。



ガラケーの方はスマホへ、そして新しい概念で

「生まれながらにスマホ」世代が主要消費者になるのもあと10年です。同じ環境で同じ経営ではトレンドの違いがある。スマートフォンに切り替え、使いこなしましょう。いまならまだ、間に合います。

19世紀と20世紀が雲泥の差があるように、20世紀と21世紀は全く違う。20世紀は電気が発明され、月へまで行っています。皆さんはズルズルと21世紀を跨いでしまった。全く違う意識をもって中長期計画を立てて欲しい。現状認識を持って新しい概念で取り組んで欲しい。



歴史から現状の課題まで学ぶ 研修会

新たに組合や産別・地協の役員となった人を対象に、1月17日、前橋市内で新任役員研修会を開催し70名が参加しました。

研修会では連合結成の歴史、メーデーからフェスティバルへの移り変わりや地協活動など重要な課題を共有しました。また、昨年、テレビ東京で放送された、『ブラック企業問題』に焦点を当て、古賀会長も出演している「緊急特集！ブラック化するニッポン～使い捨てられる若者たちを救え!!～」を放映し、参加者は関心を持って見ていました。

DVDも貸出していますので是非、組織でご活用下さい。



当選御礼！

2月8日に投開票された渋川市議会議員選挙は、連合群馬推薦候補者2名が当選を果たすことができました。

産別・地協のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

篠田 徳寿 (基幹労連)
南雲 鋭一 (JEC連合)

第1回産別・地協代表者会議 統一地方選挙に向けて情報交換



1月17日、前橋市内で第1回産別・地協代表者会議を開催しました。

連合群馬から4月の統一地方選挙に向けて、以下の点について確認を行いました。

① 体制構築

実行ある取り組みの推進や効果的・効率的な取り組みに向け、北川会長を本部長とする対策本部の体制を確立する。

② 選挙区との連携強化

情報の収集と共有、取り組みの強化をめざし、各地区との調整役を明確にし、一体となった活動を進める。

③ 取り組み

県連合：

- ・各選挙区における状況の把握、情報収集と産別・地協への発信

・「あぷらうち」や「フェイスブック」などを活用し、組織内外に対する理解・宣伝活動

産別：

- ・機関紙や行事などを活用した組合員への理解活動
- ・政治学習器材を活用した組合員への理解活動

地協：

- ・選挙区内の情勢把握と共有
- ・幹事会を活用した学習会の開催

統一地方選挙に向け作成した学習会器材を活用してください



地協からは選挙区の情勢や現状の体制について報告し、全体で共有をはかりました。

また、5月24日（日）を基準日とし開催を予定している「連合群馬ふれあいフェスティバル」の拡大実行委員会を開催し、働く仲間から信頼され頼りにされる団体として認知されるよう、統一テーマは昨年を継承し『働く仲間の力で、活力ある地域づくり!!』に決定しました。

今年の開催にあたっては、労働組合の取り組みであることのPR、メーデーからフェスティバルに至る経緯や連合の説明・紹介を通じて充実をはかることが確認されました。

衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ NO.1

『宮崎タケシ 再始動！』

2期目の当選を果たしてまもなく2カ月。年明け以降、地元にはりついて新年会など百件近い予定をこなしてきましたが、いよいよ通常国会が開幕し、本格的な国会論戦がスタートしました。



2年ぶりとなる本会議場の光景は、以前と一変。与党だった民主党も、いまや弱小野党です。自公324人に対し、民主党の衆議院議員はわずか2割強の72人に過ぎず、拍手やヤジの大きさからして比べものになりません。

しかし、ひるんでいる暇はありません！安倍政権は緊急経済対策のための補正予算に、「捜査力の強化」「米海兵隊のグアム移転」等々、緊急でもなく経済とも関係ない予算を盛りこむなど、バラマキ放題のやりたい放題。「残業代ゼロ法案」をはじめとする危険な法案も、次々に提出する構えです。

←予算委員会で馬淵澄夫氏の質問を補佐



そんな中、私は3人の同期議員とともに党の国会対策委員に任命されました。「君たちのパワーと戦闘力を買った！」と高木義明国会対策委員長。詳しい職務内容はさすがに秘密ですが、「最前線で」「カラダを張って」戦い抜けとの指令です。

行儀よい役目ではありませんが、泥臭い仕事こそ野党議員の真骨頂。安倍政権の暴走をとめ、「生活者」「納税者」「消費者」「働く者」の政治を必ずや取り戻していきます!!

安倍首相の政策の矛盾を洗い出し、国民的な声を国会に届けたい。働く皆さまの現場の声を第一に活動を進めていきます。

(1/20産別・地協代表者会議)



2007年 上毛新聞社退社、

民主党群馬県第1区総支部長に就任

2009年 衆議院総選挙。群馬1区から初当選

2012年 衆議院総選挙。群馬1区に出馬するも落選。

2014年 衆議院総選挙。再起を期す。

前橋事務所

〒371-0014 群馬県前橋市朝日町4-18-21

TEL 027-212-6588 FAX 027-212-6590



労働組合がなぜ政治活動か？

2回シリーズ その1



なぜ？労働組合が政治活動をするの？

労働組合は、賃金や労働条件の維持・向上、職場環境の改善などの取り組みを行っていますが、私たちのくらしの向上には、職場内、企業内の労使間だけでは解決できないことがたくさんあります。

連合は、組合員のみならず、すべての働く人たち、その家族のための政策・制度をつくり、政治活動を通じてその実現をはかっています。



私たちは何をしたらいいの？

普段から、政治や政策に興味を持ち議員や候補予定者の意見に耳を傾けることが大切です。組合も連合もそのお手伝いをしなければなりませんね。

議員の機関紙配付や議会報告会を積極的に開催して、身近な議員をつくりましょう。



政治に参加すると何が変わるの？

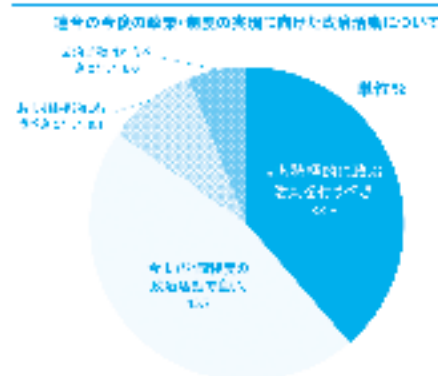
働く者や生活者の仕事や暮らしを守ることができます！

税金など今後の負担や持続可能な社会のしくみを決めるのは国民・地域の代表が行う議会「政治」の場です。

政治の場である議会に、働く者が団結して自分たちの意見を代表してくれる議員を送り、政策・制度を改善しなければ、働く者の意見は顧みられないのです！



連合の政策・制度の実現に向けた政治活動



より積極的に38.3%、同程度45.7%で84%の組合員が政治活動を行うべきと回答しており、今後も「すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現に向けて」取り組みを展開することが期待されている。

後ろ向きな発言は懸念されるところはあるが、組合員が支持していることを忘れずに、信念をもって連合群馬総体で取り組む必要があります。

組合員を中心に2013年11月に行った政治アンケート結果から

組合員のみなさんこんにちは。今月号より副事務局長4人がこのスペースを順番に担当して、連合の政策・制度の取り組みや活動の中で感じたこと、考えなどを～安心して働きたい・暮らしたい～をテーマに伝えていきます。さて、1回目は政策担当の鈴木副事務局長です。



「安心して働きたい・暮らしたい」
「私たちの年金積立金が危ない!!」

さて、みなさんは昨年十月三十一日に年金積立金運用独立行政法人（GPIF）が基本ポートフォリオを変更し「わたしたちの年金積立金が危ない!!」状況になっていることはご存知でしょうか？マスコミでも少しとりあげられただけだったので知らない方も多いと思います。公的年金制度全体の財政状況は二〇一四年度予算ベースで給付約五四兆円に対して、保険料収入約三四兆円＋国庫負担約十二兆円、足りない分は年金積立金約一五五兆円を運用して賄っているのです。この一五五兆円のうち厚生年金・国民年金の年金積立金一三〇兆円を管理運用しているのがGPIFです。

今回、GPIFが行った基本ポートフォリオ変更は安全資産とされてきた国内債券の比率を大幅に下げ、一方、国内外の株式比率を大幅にあげるなどリスク性資産割合を高めた変更になっています。株価も上がっているし良いではないかと思うかもしれませんが、政府が日本再興戦略などで「専ら被保険者のため」という厚生年金保険法等の趣旨を逸脱し、経済成長のために運用の見直しされた目的外利用で政治的介入と言わざるを得ません。また、リスクが大きくなったことで、一年間に三〇兆円規模の損失が生じる可能性があると指摘されているにも関わらず政府は明言していません。更には、保険料の拠出者である企業や労働者に十分な説明もせずに変更してしまいました。毀損したときには法的には大臣に責任があるとはいえ、結局は被保険者・受給者の老後の生活に影響がでることが目に見えています。

これまで連合は安全かつ確実な運用を求め地方議会での決議を求めるなど行動しており、我々の仲間の議員と連携し前橋市・高崎市・伊勢崎市・沼田市・安中市・桐生市・大泉町・中之条町（1月末現在）で意見書が採択。連合の声に賛同いただいております。

政府は地域や国民の声に耳を傾け安心できる社会をめざしてほしいと願う組合員のみなさんと一体となって取り組みを強めていきたいと思っております。

（鈴木）